

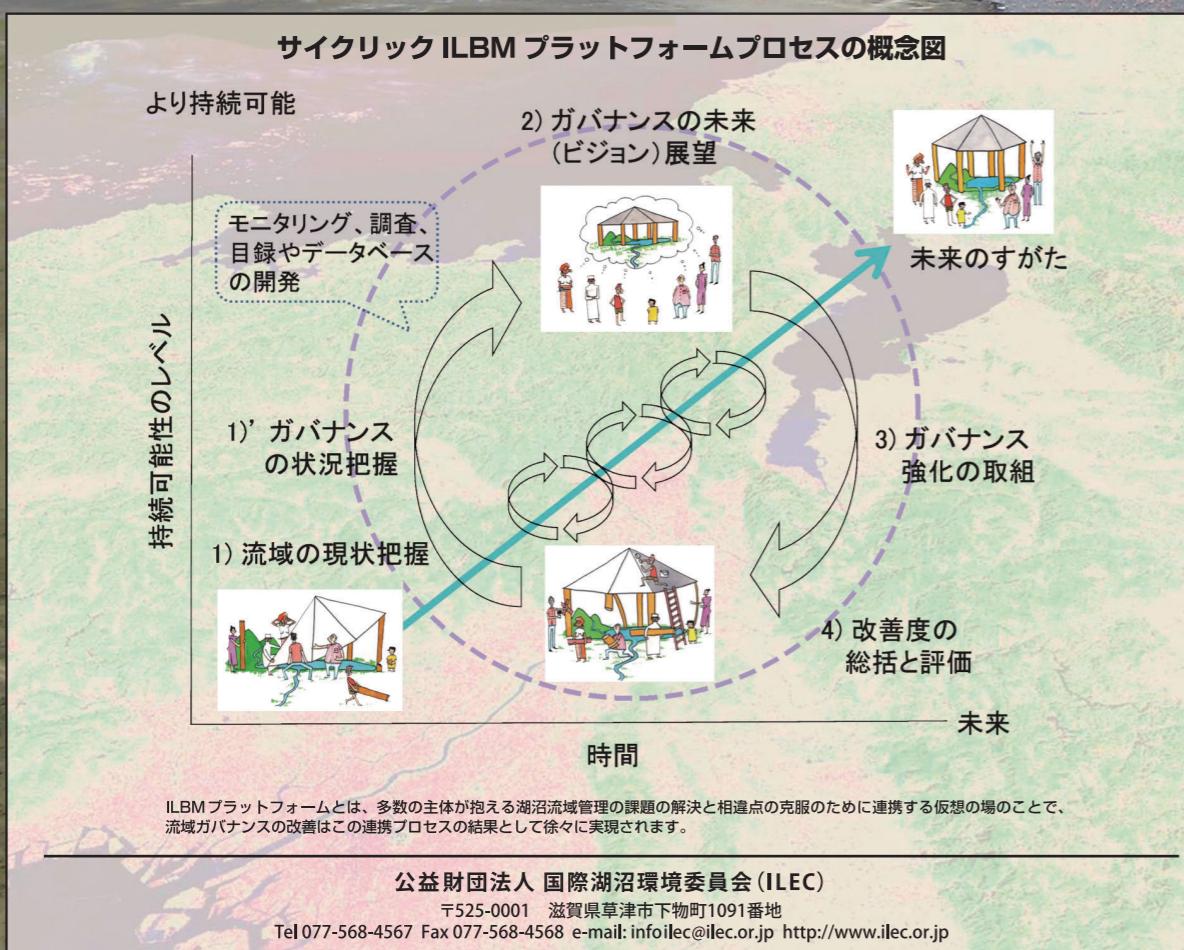


日本は、ILBMの推進を通じて世界の湖沼環境の保全に貢献します。



Integrated Lake Basin Management

世界の湖の悲鳴





今、どうして世界の湖沼環境の保全が注目されているのでしょうか?
湖沼環境は、地球規模で進行する水資源の枯渇や生物生態系の悪化
が最も顕著にあらわれます。

地球の淡水の9割以上を占める湖沼は、貴重な水資源

人類の生存に不可欠な水一。しかし、人間がすぐに使える淡水（真水）の量は、全地球上の水の2%にすぎません。そのわずかな淡水のうち9割以上が、天然湖、貯水湖、人工湖などの「湖沼」に存在しています。世界の人口が急増し、今世紀半ばには100億人に達すると予測される今、特に急がれるのが、飲料水と農業用水の確保です。清らかな水を湛え、私たちに供給してくれる湖沼の価値がますます貴重になってきています。

ムダな資源開発を止めて、持続可能な利用へ

湖沼は飲料水、かんがい用水、湖上交通、淡水漁業のみならず、生物多様性の保全、洪水の防御、気候の緩和、景観、宗教や文化の象徴的役割などの価値をもっています。しかし、湖沼の多様な価値を持続可能な形で利用し保全するための共通の枠組みが存在しなかつたため、世界各地でその資源価値が急速に失われつつあります。このまま放置されれば、多くの湖沼環境が回復不能なレベルまで悪化し、水資源を含む資源価値の悪化に拍車をかけることになります。私たちは、湖沼と流域の資源を持続可能ななかで利用・保全するため、流域管理の仕組みづくりを実現しなければなりません。



湖沼の持続可能な利用と保全を進めるとき大切なことは何でしょうか?
湖沼と流域の管理は一体的に進めることが大切です



持続可能な資源利用にふさわしい湖沼流域管理とは?

静水システムとしての特徴に配慮した統合的湖沼流域管理(ILBM)



湖沼の特徴を流域管理にどう反映すべきか

長い滞留時間

エコシステムサービスの低下は見えないところで長い時間をかけて静かに進行する



予防原則による判断

予兆を把握し、回復不可能な状態になることを防ぐ必要がある

ア
プ
リ
ー
チ

複雑に絡み合う現象

湖内現象は多様な食物連鎖、複雑な化学変化、水の流れ、エネルギーの伝播などの恒常的な物理的環境の変化に左右される



科学的調査による解明

長期にわたる科学的な知見の蓄積に基づくことで、より効果的な技術的・政策的対応が可能になる

全てを統合する性質

集水域で起こる自然的・人為的ストレスが統べ合わさって湖内の現象を規定する



順応的な取り組み

外力の長期的な変化を計算に入れ、試行錯誤を繰り返しつつ取り組みを改善していく必要がある

統合的湖沼流域管理 (ILBM)

ILBMは、湖沼と流域の管理を任せられた組織やステークホルダーが、湖沼がもつ静水システムの特徴を踏まえた上で、その資源の持続可能な利用と保全を実現するために必要な考え方を示しています。世界の湖沼環境の改善は、長期にわたる強力な政治的コミットメントの下で、組織体制や仕組み、政策の枠組みや法制度、利害関係者の参加、科学的知見、技術的取り組みの可能性と限界、持続可能な財源の調達に取り組む ILBM を推進することで、はじめて可能となります。

組織・体制

地域から国家間までの様々なレベルで運営され、資源の利用者すべての利益のために湖沼と流域を管理する組織・体制

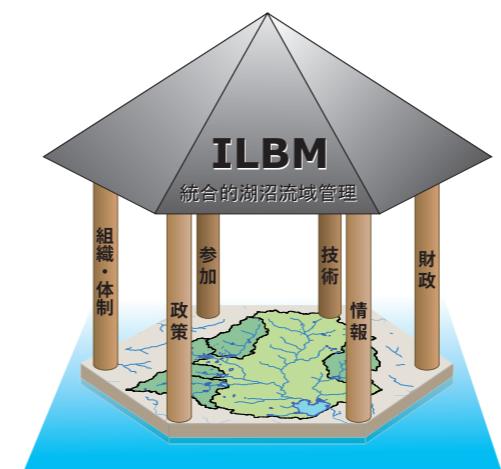
政策

法律・条例から、伝統的・非公式な取り決め（風習・慣習・しきたり等）まで、湖沼資源の利用とそれによる影響を統制する規範

参加

住民、利害関係者、湖沼に関わりを持つすべての人の参加

ILBMには、下記の6つの要素の統合による流域のガバナンスの強化が不可欠である。



技術

河川の流量制御・流路変更、排水処理、湿地の回復と造成、森林の再生と植林、湖の水位調節、堆積土砂の浚渫などの保全技術や環境改善技術

情報

伝統的な知恵から科学的な知見まで、湖沼管理を効率的に進めるための情報

財政

湖沼流域管理を長期間にわたって継続するために必要な資金